



世界初！燃料電池自動車を大学公用車に導入*

概要

「実証実験キャンパス」「エネルギーキャンパス」として位置づけられている伊都キャンパスにおいて、九州大学が世界で初めて大学公用車として市販の燃料電池自動車（FCV）を導入します。

「水素元年」と位置づけられる平成 27 年 3 月に、水素エネルギー国際研究センターでは、次世代燃料電池産学連携研究センターと連携して FCV 公用車を導入し、自然エネルギーから水素を作る国内随一の九州大学水素ステーションを活用し、ゼロエミッション社会の姿を発信していきます。

背景

平成 26 年 12 月の FCV 市販開始、水素インフラの新設、水素の蓄エネルギー利用など、水素エネルギーへの期待、需要は急速に高まっています。昨年 4 月に策定された「エネルギー基本計画」でも、「将来の二次エネルギーでは、電気、熱に加え、水素が中心的役割を担う」ことが期待されています。特に、我が国ではエネルギー問題が大きな課題となっており、自然エネルギーからの電力の系統接続保留や原発再稼働など、九州が我が国のエネルギー問題の最前線に立っています。

「エネルギーキャンパス」構想を掲げる九州大学において、水素プロジェクトはキャンパス移転で初めて実現した象徴的な活動の一つであり、未来社会の姿をいち早く具現化して、それを広めることで、大学が社会を先導する重要な役割を果たせることを国内外に示してきました。

「水素元年」を迎え、水素エネルギー技術の進化に伴い、5 年後、10 年後を見据えて、化石資源に頼らない CO₂ 排出ゼロの車社会や車産業、余った自然エネルギーを水素などで蓄えて使う未来のゼロエミッション社会の姿を示していくことが欠かせません。

内容

未来のエネルギー社会の具現化に向けて、福岡県と北九州市、福岡市が進めるグリーンアジア国際戦略総合特区「スマート燃料電池社会実証」事業（平成 26 年度）において、本学が今回導入する FCV と、水素ステーションを活用した社会実証を本年度から開始します。自然エネルギーを利活用した将来社会の検討、水素に関する社会受容性評価、エネルギー貯蔵技術実証と課題抽出、再エネ電力接続に関する解決策の提示など、九州大学伊都キャンパスから未来のエネルギー社会の姿を発信していきます。

効果

社会に開かれた九州大学伊都キャンパスが、未来のエネルギーについて多くの方々と一緒に考えていくためのフィールドやショーケースとなり、九州・日本から「水素社会」について世界に発信していくことが可能になります。

※一般販売された燃料電池自動車（トヨタ自動車製「MIRAI」）の大学公用車としての導入（購入）は、世界初になります。

【お問い合わせ】

九州大学 主幹教授

（水素エネルギー国際研究センター センター長）

（次世代燃料電池産学連携研究センター センター長）

佐々木 一成（ささき かずなり）

電話：092-802-3143、6776

FAX：092-802-3223

Mail：sasaki@mech.kyushu-u.ac.jp, fujita.miki.716@m.kyushu-u.ac.jp